

～道路メンテナンスの実行へ～

木城町総合交流センター リバリス で道路老朽化対策のパネル展を開催！

高度経済成長期に、集中的に建設された橋梁などの道路構造物は、今後急速に高齢化し、10年後には建設後50年経過する橋梁が4割以上になると見込まれます。

今でも静かに危機は進行しています。道路構造物の老朽化は進行を続け、平成25年4月時点において、通行止めや重量制限等の通行規制されている橋梁は、九州において約150箇所（全国約2,000箇所）となっています。

構造物の計画的な点検により早期に損傷を発見し、重大な損傷に至る前に対策を実施する予防保全による維持管理により、道路ストックの長寿命化の取り組みを強化し、大切な資産である道路ストックを長く大切に保全するとともに、安全で安心な道路機能の確保を図ることとします。

このため、九州地方整備局 宮崎・延岡河川国道事務所は、木城町総合交流センターリバリスをお借りして**道路の老朽化対策**に関するパネル展を以下のとおり実施します。

場所：木城町総合交流センター リバリス 1階ロビー 宮崎県児湯郡木城町大字椎木2146-1
日時：平成27年6月30日(火)～7月13日(月) 8:30～22:00（施設閉庁時を除く）

道路施設の現状（高齢化の割合）

国土交通省
九州地方整備局

◆建設後50年以上（高齢化）の割合

橋梁

九州における橋梁（橋長20m以上）のうち、建設後50年以上経過する橋梁は18%（2012時点）で、10年後（2022年）には44%、20年後（2032年）には68%と半数以上に拡大します。

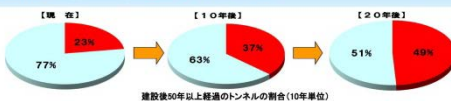


建設後50年以上経過の橋梁の割合（10年単位）

注1：建設年次が把握されている約1万4千点
注2：建設年次が把握されていない104箇所を除外
注3：建設年次が不明な箇所は1987年開通（明治元年=1867年）として整理

トンネル

九州におけるトンネルのうち、建設後50年以上経過するトンネルは23%（2012時点）存在し、10年後（2022年）には37%、20年後（2032年）には49%と約半数に拡大します。



建設後50年以上経過のトンネルの割合（10年単位）

注1：建設年次が把握されている1,014箇所を除外
注2：建設年次が不明な箇所は1987年開通（明治元年=1867年）として整理

老朽化対策の取り組み（点検技術）

国土交通省
九州地方整備局

◆老朽化対策における点検技術

・特殊点検車や船舶等で、ふだんは見えない所も近づいて技術者が近接目視点検しています。



橋梁点検車による点検

リフト車による点検

高所作業車による点検



足場設置による点検

特殊高所技術による点検

小型船舶を使用した水上での点検

展示パネルの一例

【問い合わせ先】

宮崎県道路メンテナンス会議 事務局
国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
電話：0985-24-8221（代表）

うえだ さだむ
総括保全対策官 植田 定（内線304）

かみむら てつや

保全対策官 上村 哲也（内線404）

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
電話：0982-31-1155（代表）

いけだ としひろ
技術副所長 池田 稔浩（内線205）

むらた しげお

道路管理課長 村田 茂男（内線431）